

啓発講座講師養成

東京都中途失聴・難聴者協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-25 カテリーナ御苑202

助成事業の概要

自らの体験を自らの言葉で伝え、中途失聴・難聴の聞こえの問題を客観的に話すことができることを到達目標として掲げた。修了後は聞こえの啓発講座に関わる人材育成を目的とした全6回、各2時間の講座（9月7日開講、12月21日終了）を開催。リーダーに求められる考え方や説明力は座学だけでは習得できない。講座の組み立て、テーマごとの2時間の流れ作成や模擬講義なども組み入れ、具体的な実践に結びつく講座内容とした。

事業の成果

講座開始前に取ったアンケート結果から、6回の内容を以下に設定した。「聴覚障害全般に関する基礎知識」「中途失聴・難聴者のコミュニケーション特性」「聴覚障害者が利用できる法制度」「個人の体験を客観化する」「指導案作成とグループワーク」「模擬講義」各2時間で多くのことを専門家から学ぶことができた。これまで学ぶ機会に恵まれなかった理由としては情報保障の問題がある。中途失聴・難聴者が希望する講座に参加するには聴力を活用するために必須な磁気誘導ループ、文字による情報保障として要約筆記、そして手話通訳の配備も必要になる。これらを完璧に備えて実施した講座は、環境整備に必要な要件も認知することになる。グループワークでは筆談等により他者の考えを理解し自分の考えを深めることになった。各自講座2時間を時系列で「指導案」に書き入れることは初体験だった。指導案は講座の組み

立て、話す内容を整理することができる。また話す内容を原稿にすることで、ここで何を伝える必要があるかを明確にすることができた。使用する教材についても示唆を受けた修了者が各区市や企業、学校で開催される啓発講座、福祉学習での当事者講師として活動することにより、聴覚障害者、とりわけ中途失聴・難聴者への理解が深まることになる。また、自己の障害を受け入れ、客観的に伝える中途失聴・難聴者の姿に接すると将来のモデルとして見ることもできる。講座に合わせエピソードを選び、対象者に必要不可欠な説明をすることで、本当の啓発活動ができる。さらに修了者は各自の居住区域で講座を担当することが可能となり、各地域と障害者の関わり、つながりも強まることになる。自己決定・自己発信できることに自信を持つ同障者が増えることも期待できる。誰もが生きやすい社会・共生社会を築くための発信する人が増える。

成果の広報、公表

中途失聴・難聴者が自ら講師として啓発講座や福祉学習で発信することにより、聴覚障害者、とりわけ中途失聴・難聴者への理解が深まることになる。また、自己の障害を受け入れ、客観的に伝える中途失聴・難聴者の姿に接すると将来のモデルとして見ることもできる。講座に合わせエピソードを選び、対象者に必要不可欠な説明をすることで、本当の啓発活動ができる。修了者は各自の居住区域で講座を担当することが可能となり、各地域と障害者の関わり、つながりも強まることにな

る。自己決定・自己発信できることに自信を持つ
同障者が増えることも期待できる。誰もが生きや
すい社会・共生社会を築くための発信する人が増
えていく。

■ 今後の展開

都内各地で開催実績のあるコミュニケーション講
座で、講師を担当できる人を第一期生として、養
成できた。主催者が福祉専門学校、障害関係団体
の場合もあるが啓発講座への講師派遣も可能とな
る。

当事者が当事者問題を語ることは、感情論になり
がちな部分があることは否めない。そこを冷静に
客観的に語ることこそ真意を伝えることにつな
がる。外見からは理解されにくい「聞き取れない、
聞こえにくい」ことの困難さを体験を昇華させて
講義をする場を増やしていきたい。また修了はス
タートでもあるので研修の場を提供して発信力を
高めていくこととなる。それはともに生きる社会
を作り上げる意識を醸成することにつながる。